

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【蓮沼小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、知識・技能の定着を見取ることができた。しかし、個人差は大きいことから個別に必要な支援を継続して行っていく必要がある。国語科の「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」では、結果が向上した学年もあるが、全学年での課題であると考え。算数科の「数と計算」において、学年関係なく課題が見られる。「学年・学級」の時間、ドリルパーク等を活用し、漢字学習の反復・習熟に取り組むだけでなく、文章内で意味を考えた活用ができるように授業改善を行う。さらに、他教科でも積極的に漢字を使用するなど方策を実施していく。また、計算練習においても、個々の課題を既習学年のどの系統から起因するものか確認しながら支援を実施していく。さらに、カリキュラム・マネジメントを実施しながら改善を図る。	
思考・判断・表現	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにすることで、「話すこと・聞くこと」の結果が向上した要因と考える。しかし、継続して学校全体としての課題であるため、様々な教科で、話し手の意図をとらえながら聞き、必要に応じて記録を取り、自分の考えがもてるようにするために、授業改善を進めながら全学年で教科横断的・系統的に進める。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」で肯定的な回答の割合を維持する。	

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」 <指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間を確保しているが、児童の自己調整する方法をここに合わせて指導することが不十分である。	⇒	「基礎定着」の時間を設け、児童の実態に合わせてドリルパークやスタディ・サブリ等を効果的に活用し、国語の基礎・基本となる語彙等の反復・習熟に取り組む。【2週間に1度】スタディログ等を使い個別に学習計画を立てる（見直す）時間を設定する。【月に1度】学習の振り返りを実施し、授業において、一人ひとりの児童に合う課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5分実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 「話すこと・聞くこと」が課題である。 <指導上の課題> 児童一人ひとりに合った自己表現する方法を教師が十分に評価し改善策を提案できていない。	⇒	「話すこと・聞くこと」が課題であるため、様々な教科で、話し手の意図をとらえながら聞き、必要に応じて記録を取り、自分の考えがもてるようにするために、活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようになる。【R6年度さいたま市学習状況調査】「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問事項において【肯定的な回答の割合を90%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「基礎定着」の時間や「学年・学級」の時間を活用し、児童の一人ひとり合わせてドリルパークやスタディ・サブリ等を効果的に活用し、国語・算数を中心に反復・習熟に取り組むことができた。授業において、一人ひとりの児童に合う課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定するような授業改善を実施した。R6年度さいたま市学習状況調査において、「書くこと」において、向上が見られた学年もあったが、全体としては継続して課題である。
思考・判断・表現	B	各教科の活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする授業改善を進めることができた。【R6年度さいたま市学習状況調査】「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問事項において【肯定的な回答の割合を5学年88%6学年92%】

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科の「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる」問題で課題がみられた。問題別解答類型をみると無解答率が高く読書に関しての有用性や効果等について実感していない、また読書の記録から読み取った内容を選ぶことができなかった児童が多いと考えられる。朝読書の活用、作者の記録からの読み取りを活用しながら、自分の考えや友達の考えを共有していく機会をより増やしていく。	
思考・判断・表現	算数科では、「データの活用」領域において、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」問題に課題があった。問題別解答類型をみると、基準値をこえる計算において間違いをしている傾向もみられた。「数と計算」を定着させるために、学習履歴の活用や個々の課題に合う、ドリルをアプリ等も活用しながら選り、基礎定着タイムで実施していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科では、結果が向上している学年もあるが全体として、言葉の特徴や使い方に関する事項、「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」に課題がみられた。文中の中で意味を理解して書くことができていないと考えられる。算数科では、数と計算に課題が見られる。基本的な計算、小数の計算等が正確にできていないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語科の「話すこと・聞くこと」において、同集団比較においてR5年度の結果を上回る学年が増加した。教科横断的に話し手の意図をとらえながら聞き、必要に応じて記録を取り、自分の考えがもてるようにするために、授業改善を実施してきた結果だと考えられる。しかし、全体的に正答率が低い傾向があるため継続して指導を続ける。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「基礎定着」の時間や、授業の最後等に児童自身がドリルパークやスタディ・サブリ等を活用し、自身の課題に取り組む習慣ができた。スタディログ等やスクールダッシュボードを活用し、学習計画の見直しや授業改善に取り組む機会が不足していた。児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することが増えた。	児童の学習計画の見直しのための時間を意図的に設定する。教師が、スタディログを確認する時間を設定する。
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現するために教育支援ソフトを活用して授業を実施することができた。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【蓮沼小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「読むこと」「書くこと」 算数「数と計算」「測定」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。漢字や計算が苦手な児童が多い。個に応じた指導を充実し、反復練習や振り返りの時間を確保する必要がある。	授業の最初に、前の時間の振り返りの時間を確保し、その学習を生かして、本時の課題に取り組むことができるようにする。その時間に学習したことを振り返る時間も確保し、定着できるようにする。【毎時間】 「学年・学級の時間」を設け、書き込み式のドリルやノート、ドリルパーク等を活用し、漢字や計算の反復練習の時間を確保する。【週に1度】 1人1台端末を効果的に活用し、児童主体の授業を行い、成果と課題を共有する。【週に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」「書くこと」 算数「数と計算」「測定」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導の時間を確保し、指導を充実させていく必要がある。	特に「読むこと」「書くこと」や算数の授業において、主体的・対話的で深い学びを実現するために、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した授業を行う。【毎時間】 ICTを効果的に活用し、児童同士で考えを深めたり共有したりする場面を設定する。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)